

緑化だより

No.167 令和 2年 12月号



コバノガマズミ

- 季節の花(シラカシ)
- 昆虫の話
(枯れ枝の上の目玉模様・アオクチブトカメムシ)
- 小さな世界こけ(コケが観察できる場所(10))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑化センターの本本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

シラカシ

「あしひきの 山道も知らず 白檀(しらかし)の 枝(えだ)もとををに 雪の降れば」
柿本人麻呂 万葉集 卷10-2315

これを訳しますと

(山道も、どのあたりにあるのかさっぱり分かりません。シラカシの枝が、たわむれるほどに雪が降り積もっていますので)

山中の雪の深さに驚いている様子を歌ったものです。シラカシの木は堅い木で簡単には雪が積もっても枝はたわみません「とををに」はたわみ曲がる様子です。

シラカシ(白檀、白檀)はブナ科コナラ属の常緑高木です。岩手、新潟県以西から九州、朝鮮半島の山地に自生し、南限は種子島です。日本では主に関東地方の照葉樹林帯に多い樹木で、中国山地では三次から帝釈峠にかけての地域に多く分布しています。高所や沿岸部ではほとんど見られません。花は5月ごろ咲いて10月ごろにどんぐりの実がなります。



シラカシ

名前の由来は葉の裏が白いからではなくアカガシに比べて、材木にしたときに色が白いので、シラカシと呼ばれますが、樹皮が黒いことからクロガシともいわれます。

アカマツ、コナラ、クヌギは太陽の光がないと育たない陽樹(ようじゅ)ですが、シラカシは太陽の光が少なくても発芽して育つ陰樹(いんじゅ)です。現在、里山は森林の管理が悪く、陽樹のアカマツが弱り、陰樹のシイ、カシの仲間がだんだんと成長して陽樹から陰樹に変わりつつあります。つまりアカマツ林が成長している間に、陰樹が足元で育っていたのです。

シラカシは防風林や庭の生垣、公園緑化として、よく植えられています。材は固くて重く弾力に富んでいるので、建築、船舶の用材、道具の柄、木刀に利用しています。果皮やどんぐりは民間療法や食料として使われ、役に立っていた歴史があります。

四国の愛媛県大洲市の三嶋神社の境内には樹齢700年といわれる古木があり、神が天下った聖樹として、地域の人々に大切に崇められている伝説の場所になっています。広島県では三次市の熊野神社のシラカシは高さ約25m、周囲4.8mの大木があり、広島県の天然記念物になっています。(上村)

昆虫の話

枯れ枝の上の目玉模様・アオクチブトカメムシ

紅葉が終わり木の葉が落ちるころ、裸になった木々では様々な昆虫の卵を見つけることができます。スポンジのようなオオカマキリの卵、空の繭に産み付けられたウスタビガの卵、新芽に産み付けられたミズイロオナガシジミの卵など、形態、数、産み付け方、どれ一つとっても同じ物はありません。そんな中でも異彩を放つのがアオクチブトカメムシの卵です。

2mmほどの大きさの卵が、規則正しく2列で整列しています。さらに、その上部には白黒の目玉模様が描かれているのです。

アオクチブトカメムシは緑の金属光沢をもつ大型のカメムシで、夏から秋にかけて成虫が見られます。奇妙な卵に反して、成虫はごく普通のカメムシの姿をしています。その食性は肉食で、他の昆虫を捕らえ、その鋭い口で汁を吸ってしまいます。中でもチョウやガの幼虫を好んで捕食します。そのため、毛虫や芋虫の豊富な森林で生活しており、広島では自然度の高い山地で主に見られます。



アオクチブトカメムシ

秋、アオクチブトカメムシの雌は枝先に卵を産み付けます。卵は寒さに強く、そのまま冬を乗り切り、木々の芽吹くころに孵化します。その際、目玉模様にそって亀裂が入り、まるで潜水艦のハッチのように卵の蓋が開きます。そして中から現れるのは親とも卵とも似ていない真っ赤な幼虫です。同じころ、森では新芽を食べるチョウやガの幼虫が誕生しています。アオクチブトカメムシの幼虫はそれらを狩って成長するのです。もし冬の山で、枝先に並ぶ目玉模様を見つけたら、ぜひ観察してみてください。(市森林公園 こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(10-2)

今回も樹木見本園のコケを観察してみましょう。

地面には、セン類のスギゴケ、コスギゴケ、タチゴケ、スナゴケ、ハイゴケ、ホソバシラガゴケなどが生育し、樹幹には、タイ類のカラヤステゴケ、フルノコゴケやセン類のサヤゴケ、ヤノウエノアカゴケ、コバノイトゴケ、ノミハニワゴケ、ハイゴケ、タチヒダゴケ(コダマゴケ)、ミノゴケ、カラフトキンモウゴケなどが見られます。

今回はカラフトキンモウゴケを観察しましょう。

カラフトキンモウゴケは、日当たりの良い樹幹に、黄緑色の小さなドーム型の群落を作ります。

乾燥しているとき、葉はよじれるように強く巻き込み、湿ると放射状に広がります。茎は真っすぐ伸び、長さは5~10mmくらい。葉の長さは2~3mm、葉の付け根は広く壺状ですが、急に細くなっています。葉の縁はギザギザがありません(全縁)。胞子体の柄は、長さ2mm前後と短く、長い首の倒卵形の胞子のうをつけます。成熟前の胞子のうの帽には金色で上向きの毛があります。



カラフトキンモウゴケ

帽に毛があることや、乾燥したとき葉が巻き込むなどの特徴は前回紹介したミノゴケと似ていますが、ミノゴケは匍匐性で、長く伸びた茎から放射状に葉をつけますが、本種の茎は直立し、群落も小さく丸い、胞子のうの首が長い、などの違いがあります。又、タチヒダゴケやサヤゴケも同じ環境を好むため、混在していることがあります。蒴をつけていないと判別が難しいかも知れません。(山根)

研修会のご案内

- 12月6日(日)『クリスマスリース作り』
自然素材でリースを作ろう(直径40cm以下で)
※要予約(キャンセル待ち)、材料費500円
10:00~12:00 学習室 集合
講師:森林インストラクター 長井 稔
- 12月10日(木) 第4回ひろしま遊学の森「四季の移ろい」
写真コンテスト公開審査
10:00~12:00 学習室 集合
講師:二科会会員 宗岡 泰昭
※ 自由参加・無料
- 12月13日(日)『粘土でサンタさんを作ろう』
粘土のサンタさん作りに挑戦
※要予約(先着25組)、材料費2,000円、小学生以上
10:00~12:00 学習室 集合
講師:デコクレイクラフトアカデミー上級講師
モーモーアート代表 小田 みやこ
- 12月16日(水)『常緑広葉樹の見分け方
~冬芽と葉のつき方~』
室内で実物の葉っぱを見て特徴を学ぼう
※ 自由参加・無料、ルーペ持参
10:00~12:00 学習室 集合
講師:森林植物研究家 埴田 宏
- 12月20日(日)『ミニ門松づくり』
正月飾り作りを体験しよう
※要予約(キャンセル待ち)、材料費1,000円
10:00~12:00 学習室 集合
講師:三良坂竹公房 指導員 諫早 良雄
- 1月6日(水)『春の七草と冬の野草の観察会』
七草について学び、冬の野草を観察します。(今回、試食はありません。)講師:緑花文化士
※要予約(先着30名)、無料
10:00~12:00 学習室 集合
横山 直江

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。

☆お知らせ・ご案内☆

- ・12月の休園日は7日、14日、21日、28日の月曜日、及び、年末・年始の12月29日(火)~1月3日(日)です。
- ・合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

・DECO クレイクラフト展 ~1月24日(日)
(ボード展示)

・第4回ひろしま遊学の森「四季の移ろい」
写真コンテスト展

12月19日(土)~1月24日(日)

場所:学習展示館
(ボード展示)

・第8回ひろしま遊学の森
「こども写生大会」作品展

~12月10日(木)



合格祈願「やまこうばし」のお守り



「DECO クレイクラフト展」より